

「2025日本万国博覧会」の大阪誘致に対する決議

国際博覧会は、人類が抱える地球的規模の課題に対し、世界からの知恵を一同に集めることで、解決方策を提言する場であり、新しい時代を生きる知恵を広く発信することにより、世界と日本の平和的発展に大きく寄与することが期待されている。

わが国はこのたび、2025年国際博覧会の開催国に立候補することをBIE（博覧会国際事務局）に届け出、去る6月14日にパリで開催されたBIE総会において、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、大阪誘致に向けてプレゼンテーションを行ったところである。

国際博覧会の大阪での開催は、古くから、人々の叡智により新たな技術を生み出し、文化・産業の両面から国内外をリードしてきた大阪から、世界中の人々の健康に係る様々な課題を克服し、人類の未来に向けてより良い生活を送ることができる新しいモデルを提案することや、それを広く世界に発信するという点において、大きな意義がある。

また、新たな観光や産業のイノベーションが期待できるなど、大きな経済効果をもたらすとともに、全世界に向けて大阪の存在感を示す絶好の機会にもなり、市民の健康増進や地域の振興にも寄与するなど、都市の活性化、市民生活の向上も期待できる。

また、2019年（平成31年）にはラグビーワールドカップ、2020年（平成32年）には東京オリンピック・パラリンピック、2021年（平成33年）にはワールドマスターズゲームズ関西など、一連の国際ビッグイベント開催が決定しており、関西ではこの間の様々な分野での波及効果に大きな期待が寄せられている。加えて2025年万博の大阪誘致に成功すれば、今後8年余にわたるこれらの流れが関西圏における都市活性化の起爆剤になることは言を待たない。

とりわけ空の玄関口・大阪国際空港を有し、新幹線や高速道路などの交通インフラ資源に恵まれた本市ならびに北大阪地域にとっては、まちづくりに向けたこの上ない絶好の機会といえる。

よって、豊中市議会としては、大阪での国際博覧会開催の意義に賛同するものであり、国際博覧会の誘致・実現に向け、大阪府・大阪市や経済界とともに、積極的に取り組むこととする。

以上、決議する。

平成29年（2017年）6月26日

豊中市議会